

〈メサイア〉 研究ノート III — テキストをめぐる —

村原 (田中) 京子

(2005年10月17日 受理)

A Study of <MESSIAH> III — Concerning its Text —

TANAKA - MURAHARA Kyoko

要 約

〈メサイア〉のテキスト研究, それは聖書研究に他ならない。〈最初にテキストありき〉, そこにあの感動の音楽が付けられたのである。これまで音楽優先に考えてきた非キリスト教徒の筆者が, テキストへのうわべ把握の反省と共に聖書研究, 否聖書を学ぶ事により, 宗教オラトリオとしての〈メサイア〉の精神に近づき, ヘンデルの創作意欲を揺さぶった聖書テキストの深淵を共感したいとの思いで研究を進めた。余りにも膨大な旧約・新約聖書, 先ず〈メサイア〉テキストとして抽出された聖書の書について概要を探り, その上でジェネズが取り上げた聖書の章, そして量的には僅か一部の節にどれほどの意味, 精神内容が込められているかを考察した。テキストの背後にある状況, 深い示唆を知ることにより, 従来とは異なる音楽認識に繋げられると確信する。

キーワード：ヘンデル, オラトリオ, メサイア, テキスト研究, 聖書

§. 序

〈メサイア〉研究ノート I (紀要55巻) において作品の成立, 初演・再演の背景を, 研究ノート II (紀要56巻) では, 初演からヘンデル没年までの演奏・楽譜 Version の変化を考察してきた。その研究過程において常に気がかりな, しかし容易に立ち入ることの出来なかったのがテキスト (聖書) 問題であった。テキスト作者チャールズ・ジェネズが聖書の言葉を抽出し, 救い主メシア (キリスト) 生誕の預言・降誕, 受難・再臨, 復活・永久の生命を謳いあげた〈メサイア〉テキストに感動したヘンデルが寝食も忘れ, 時に涙しながら作曲に没頭, 僅か24日で書き上げたそのテキストがもたらした靈感とは? 1742年から今日に至る迄世界中のキリスト教徒メサイア愛好家の方々は, 〈メサイア〉の精神中枢としての聖書とヘンデルの音楽を一体に享受してこられたのであろう。

しかし大多数がキリスト教、聖書とは無縁のわが国においても〈メサイア〉熱は止む事を知らない。我々日本人は〈メサイア〉解説書に引用された聖書刊行会日本語聖書訳を斜に見ながら、テキストの精神とは関係無くヘンデルの音楽にのみ埋没しているのではないだろうか？

聖書に関する研究は人類永遠の課題であり、敬虔な宗教学者に委ねなければならないことは承知の上で、ヘンデル研究、〈メサイア〉研究のための一助として敢えて聖域に踏み込むことにする。選び抜かれた聖書の一節一節から成る〈メサイア〉テキストの全体像を見直し、ジェネンズの聖書抽出意図とヘンデルの共感を探ることによって、音楽としての〈メサイア〉研究精度を更に高めていきたいと考える。

§. 聖書から抽出された〈メサイア〉テキスト

メサイアのテキストとして抽出された旧約・新約聖書の個所は以下の通りである。

旧約聖書		新約聖書	
預言書	イザヤ書 40章1-5, 9, 11節, 7章14節, 60章1-3節, 9章2, 6節, 35章5, 6節, 50章6節, 53章3-6, 8節, ハガイ書 2章6, 7節 マラキ書 3章1-3節 ゼカリア書 9章9, 10節 哀歌 1章12節	福音書	ルカの福音書 2章8-11, 13, 14節 マタイの福音書 11章28, 29節 ヨハネの福音書 1章29節
		手紙	ヘブライ人への手紙 1章5, 6節 ローマ人への手紙 10章15, 18節 8章31-34節 コリント人への手紙 15章20-22, 52-57節
詩と知恵	ヨブ記 19章25, 26節 詩篇 22編7, 8節, 69編21節 16編11節, 24編7-10節 68編11, 18節, 2編1-4, 9節	黙示	ヨハネの黙示録 19章6, 16節, 11章15節 5章12, 13節

レコード・CDの〈メサイア〉解説の際に、筆者もご多分に漏れず1曲1曲に聖書の出典と訳を付し、およそ理解していたつもりであった。こうしてあらためて抽出個所を拾い上げ、並べてみると、ジェネンズが思い入れた重要な個所が見えてくるのではないだろうか。

預言書の中で、イザヤ書から21節(14曲)、ハガイ書、マラキ書、セガリア書、(エレミア)哀歌から1-3節が選ばれ各1曲づつが割り当てられている。詩と知恵からは、ヨブ記1節(1曲)詩

篇15節（10曲），明らかに旧約聖書のイザヤ書と詩篇からの抽出が目立っている。

〈メサイア〉第1部：預言・降誕，第2部：受難・再臨，第3部：復活・永久の生命，の各曲に聖書のどの部分がどの様に当てられているかは後述するとして，先ずジェネズが〈メサイア〉に抽出した聖書の各書について概略を記し，聖書研究ノートとしたい。

§. 〈メサイア〉に抽出使用された聖書概略

旧約聖書

・ 預言書

〈預言なくして聖書なし〉^{註1}，イザヤからマラキまでの17書からなる預言書にあらわれる預言者たちが語るのは神の言葉である，何故に神の言葉が？

エジプトにおける奴隷状態から贖いだされ，律法を与えられ，一国の民となったイスラエルの民，彼らは神に従う生活を委ねられ，神の赦しと哀れみに頼るよう宗教を与えられた。しかし俗世の彼らに自己満足，不道德，更に内紛といった俗的感情・事態が生じる度に，神の存在を思い起こさせねばならなかった。そこに遣わされたのが預言者であり，国民を神と神の道に呼び戻すために神から遣わされた使者としてイザヤ，ハガイ，セガリア，マラキ等々の預言者たちが神の御言葉を語ったのが聖書の預言書である。預言者は人々に対して神のメッセージを宣言する任務を背負っていた，即ち預言者とは「神による召命」を意味することになる。無論，主イエスは神の子であると共にも人の子である。聖書（預言書）は，人が神と完全に一つになる時，真の人間性，豊かな個性が完成されるというキリスト教教義の上に成り立つ書である。

各預言者達は，イスラエル国民の墮落，捕囚，そして母国への帰還の時代（紀元前）に属しており，その期間は250年から300年に及ぶとされる。彼らは危険が押し迫った時に遣わされ，破滅に向かって突き進んでいる人々の行動を止め，裁きの警告を発し，悔い改めて神に立ち返ることを勧めるのが任務だった。

イザヤ書：預言書の最初にあるイザヤ書，イザヤは紀元前8世紀にエルサレムにおいて活動した人物で聖書中最も偉大な預言者であった。しかしイザヤ書はイザヤ自身が書いたのではなく，イザヤの名のもとに一巻にされた書物，2～3世紀に亘って書かれたとするのが定説。しかもイザヤ書は2部分に分けられるという説と3部分に分けるとする説がある。2部分説は1-39章，40-60章の2つの書であり，マルティン・ルターも2つの書説を認めていたという。1-39章はイザヤの宣教の記録である。3つの書とする説は，それらが書かれた時期を重視し，1-39章（紀元前8世紀）を第1イザヤ，40章以下55章までを第2イザヤ（紀元前6世紀），56章以降66章迄を第3イザヤ（紀元前5世紀）としている。イザヤ書を読み進むうちに，筆者は2分説を採りたいと考えるに至った。何故なら最初の1-39章は，複雑な物語の筋書きにのっとなって預言者イザヤの活動と推定され

^{註1} 前田護郎：ことばと聖書 p.43

る事柄に従って年代順に構成され、それに預言者の裁きと約束の託宣集が伴っている。40-66章、即ち第2書は全て預言者の詩文によって構成され、歴史の物語は存在せず、神のイスラエルに対する慰めと約束を説いている点で大きく2種類の書法に分類出来る。

ハガイ書&セガリア書：ハガイ書が2章、セガリア書が14章、マラキ書が4章と極めて短い書であるが、旧約聖書最後の珠玉の3巻。ユダヤ人が捕囚後本国へ帰還した頃を背景に、神の御言葉を民に伝えるものである。両書は時代的にも内容的にも関連があり、纏めて考察する。ハガイは紀元前520年に、セガリアは520-518年に「主からの言葉」を伝えている。両者は紀元前587年に破壊され工事が中断していた神殿の再建へ向けて、神のメッセージで民を勇気付け、紀元前516年の完成へと導いた。しかしこの2つの書の根本的関心事はただ単に神殿の再建ではなく、民に何を優先させるかを問い教えた永遠の適切性を持った書と解釈される。

マラキ書：旧約聖書最後のマラキ書のマラキは人名ではなく、「わが使者」を意味し、紀元前460-430年頃に書かれたとされる。ハガイとセガリアが神殿再建へ民を激励してから80年後の時代、ハガイの約束にも拘わらず神殿再建後も民の苦難の生活が続き、神の正義に対する懐疑が芽生え始めた時代にあって、マラキは神の使者が必ず来ることを告げ、悔改めを迫る、民に対する悔改め勧告の書である。

哀歌：預言書のエレミア書の後に置かれ、エレミアの哀歌と呼ばれることもあるが、近年これは間違いとされている。かつては預言者エレミアがエルサレムの荒廃を嘆いて謳ったと考えられていたからであって、現在ではエルサレム陥落（紀元前586）から捕囚民帰還（紀元前538）の間に他の誰かによって作られたと考えられている。全体は5章から成り、イスラエルの罪に対する深刻な懺悔が謳われている。首都の破滅、住民の飢餓、暴行による苦難が具体的に、痛ましく語られ、その上なお神による救いの希望が切実に祈られている。

・詩と知恵文学

〈メサイア〉に抽出されたヨブ記、詩篇をはじめ、箴言、伝道の書、雅歌の5書からなる詩と知恵の書。

ヨブ記：著作年代は不明だが、物語は族長時代。ヨブ記は42章から成り、冒頭の2章は壮麗な詩（ヨブと彼の友人達との大論争）への導入プロローグの散文、第42章後半も全体を締め括る散文の形式、ヨブ記の中心となる大半は韻文の形態を採っている。ヨブは裕福（ここで言う裕福は金持ちという事ではなく、羊や牛を沢山持っているという意味）で強い影響力を持った族長だった。

もし神が善良な御方であるならば、何ゆえ罪のない人を苦しめるのか、戦争やテロによって不慮の災難を受けたり、病で死なねばならないのか。ヨブは善良な人間であったが、災難が彼を襲い、財産、家族を失った上に皮膚の悪性腫瘍に悩まされ、その苦痛のあまり、彼の信仰の深みまで揺さぶられる。ヨブの3人の友人は、繁栄は善良な人間への神の報酬、災害は個人の罪に対する神の裁きであるという一般真理を盾にヨブを苦しめ、ヨブもまた自分の災難だけをミゼラブルに感じ、4

人の議論が続く。論戦の白熱する中でヨブは神への自分の見解が狭いと悟り、神ご自身を知る。即ち、人類全ての重荷と苦しみを背負わせるためにキリストを送られた神を知る。現代においても苦しみの中にある多くの人々が本書の中に回答を見出す事が出来るのかもしれない。

詩篇：ルターが〈聖書全体の縮図である〉^{註2}と述べたという詩篇、全体は5巻に分かれており、(1巻：1-41編、2巻：42-72編、3巻：73-89編、4巻：90-106編、5巻：107-150編)各巻の終わりに頌栄があり、第5巻の終わりは全詩篇を結ぶ頌栄となっている。詩篇で詠われているのは褒め称えの賛歌、嘆願の祈り、感謝の祈り、信頼の祈り、知恵の祈り、ダビデ王国のための創作、行進の典礼、入城の典礼に分類される。

新約聖書

新約聖書として知られている書の殆どが2世紀の後半に現れた。その著作の期間は極めて短く、(紀元)後50年から125年頃にかけておよそ75年の間に完成されている。無名の、あるいは偽名のキリスト者たちによって書かれた多くの文書の中からそれぞれの著者が選んだものであるとされている。

・福音書

マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの四福音書にはイエスの生涯及び教えの記録が網羅されているが、どの書も少なくともイエスの死後30年までは出来上がっていないことから、イエスの言行が記憶しやすい詩の形で伝えられたものが著作として残されたと考えられている。しかも、マタイ、マルコのどちらが先に誕生したかということについて、かつてマタイ優先説とマルコ優先説が主張しあったが、今日では両福音書資料は同一であり、マタイがマルコに基づいて書かれたとする説、即ちマルコ優先説に分がある様である。これは宗教者達の間では大問題であろうが、我々の〈メサイア〉テキストとしては、どちらが先かという僅かな年月の違いなど問題ではなく、そこに歌われた詩が何を語りかけ、人々をどこへ導くかという福音書の持つ精神に近づくことこそ重要課題なのである。〈メサイア〉ではマルコは使用されていない。

マタイ福音書：使徒マタイ(過去は取税官)によってユダヤ人同胞のために書かれたとされるこの書は、イエスが旧約に預言され、長い間待望されてきたメシア(キリスト)であることに焦点が当てられている。ユダヤ人達はローマの支配から自分たちを解放してくれ得る指導者(イエス)を待っていたのである。イエスの系図と誕生物語、イエスの復活と顕現の記事、イエスの教え(山上の説教)、弟子たちへの指令と訓告、たとえ話集、罪と赦しに関する教え等が主たる内容となっている。

ルカ福音書：ルカもまたイエスの全生涯を伝えた書。四福音書の後に位置する〈使途の働き〉と共に、初代教会史の2部作(第1部：ルカ、第2部：使途の働き)を成しており、両書ともローマ

^{註2}キリスト教大辞典：詩篇

人テオピロに献呈され、目的を同じくする。医者であり、パウロの伝道旅行の同伴者であったルカの関心事は単なる伝記作家としてではなく、イエスの生涯を通してパレスチナに起こった出来事の真実に到達することであった。イエスを全人類の救い主として、その来臨を世界的出来事として教え、私たちに人間イエスを見る様仕向けている。特に病める人、身寄りのない者、貧しき者、女性、子供、この世で除け者にされている者など、弱者への思いやりを教える書である。

ヨハネ福音書：最後に書かれたヨハネ福音書は他の三福音書とは大きく異なり、おそらく紀元90年頃の著作、読者が既にイエスの生涯を知っていることを前提に書かれている。著者ヨハネは自らを「イエスが愛された弟子」と呼んでおり、12人の弟子の中でもイエスとペテロにごく近い者であった。ヨハネはイエスの多くの奇跡の中からイエスが何者であるかを明確に示す証を選び出し、読者を信仰に導くという主目的に従っており、イエスがご自身について語られた事を記録している。ヨハネ福音書はイエスがメシア、そして神の御子であるということが基調になっている。

・手紙

新約聖書には、パウロの名で13通、ヤコブ1通、ペテロ2通、ヨハネ3通、ユダによって1通、著者不明1通（ヘブル人への手紙）、計21通の手紙が記されている。

ヘブル人への手紙：新約聖書の中で唯一著者不明の一通であるが、キリスト教とユダヤ教との間を揺れ動くキリスト者のために書かれている。ある意味でパウロのローマ人への手紙と一対になっているという点でパウロが書いたという説も存在したが、聖書史の中で文体その他から否定され不明のままになっている。ユダヤ人の読者に対し、イスラエルの宗教史において先にあった事柄とキリストの関係を説明し、キリストは生き餌を捧げた祭司であり、罪の傷害物を取り除き人々に神に近づく道を開いた、キリストこそ人々の求め続けてきた実体であると教えている。

ローマ人への手紙：新約聖書の中で最も高い評価を受けているパウロによる手紙であり、人が神に受け入れられる唯一の理由はキリストへの信仰であり、ユダヤ人、異邦人の区別は無いということ大きな主題としている。パウロは世の現実を描き、何人も神の基準に照らせば有罪であり、神の律法を知る特権を与えられたユダヤ人でさえそれを守ることが出来なかった。しかし神は無償で罪の赦しと新しい命を与えられた。イエスは私たちの身代わりとなって刑に服し、私たちは新しい出発を与えられたと教えている。

コリント人への手紙：紀元54年頃書かれた2通の書簡（コリント人への手紙第1，第2）はコリント教会の様々な悪弊に心痛めた伝道使パウロの著。ギリシャの町コリントはローマによって破壊、再建された商業都市であった。パウロがこの地に18ヶ月滞在し教会を設立した様子を物語っている。教会内の派閥争い、近親相姦、訴訟問題、結婚問題、偶像にささげた食物・祝宴に関する問題、女性の被り物と女性の地位、御霊の賜り物、死者の復活等々、不節制と性の放縦の町コリントへの知性を誘う一文である。

・黙示

ユダヤの歴史の中で最も厳しかった時代、紀元前200年から紀元100年頃迄、預言者達の声は絶え

て久しく、預言とは裏腹にユダヤ人達は敗北し、征服され、宗教迫害に苦しんでいた。そんな時代であったから、預言者達の幻と靈感に立ち返り、旧約聖書の偉大な人物の名を借りて、「黙示文学」が生まれたとされる。

ヨハネ黙示録：紀元90年から95年頃書かれたヨハネ黙示録は、ヨハネと名乗る著者によって書かれた幻の書である。何故に幻？ ヨハネの見たキリストの幻、ヨハネの見た天の幻として地上の出来事は天上の出来事へと移され、地上の命を永遠の中で描こうとしている。即ち幻によって世の終わりに関する事について神の啓示を受けるということであろうか。終末事象、最終審判、新世界出現、そして中核となるキリストの再臨。イエスの再臨近きを告げ、希望を抱かせ、慰めと励ましと警告を与えようと書かれた書である。中でも8章から11章にかけての7つのラッパは、4つの災いが自然界（地・海・川・天）に被害をもたらすという象徴的絵画的表現として注目される。そしてヨハネ黙示録に見られる天の御座の部屋における儀式の重要な特徴は神を賛美する16の賛美歌であろう。天の典礼というユダヤ教の伝統とローマ宮廷での儀式との諸側面を合わせて、終末の出来事の意味を解釈する物語の道具として賛美歌を用いたのである。

§. 〈メサイア〉テキストの構成とテキストが意味する事実と精神内容

チャールズ・ジェネズにより、〈メサイア〉のテキストとして抽出され、300年を超えて世界中の人々に歌われてきた歌詞。歌詞の言葉面を歌うか、内面を歌うか、音楽表現に最重要点である。馴染み深い言葉、解りやすい言葉（歌詞）の場合は理解と表現はほぼ同時に進行出来よう。しかし聖書というある種抽象的な、そして気高き世界、しかも古英語の歌詞の演奏は〈習わぬ経を読む〉的な印象を拭いきれなかった。筆者でさえ、聴きなれた旋律、口をついて出てくる歌詞に、気分高揚しながら天上の世界に誘われていた。こうして聖書を繰り、聖書注解を熟読し、その世界に入り、改めて〈メサイア〉テキストの原点とその素晴らしさを知った思いである。〈メサイア〉テキストの理解は、聖書全体をどれだけ深く理解しているか、テキストとして抽出されたほんの一部の言葉が聖書の書の、章の、節の中でどんな役割を果たしているか精通していなければならない。日頃聖書に馴染みの無い我々日本人にとって難しい問題である。日本語聖書を開ければ歌詞訳は容易に見つけ出せよう。しかし使われたテキストの節から章へそして書へ、更に聖書全体へと視点を広げ、またその逆をと交互思考することにより、はじめて〈メサイア〉の精神中枢に触れることが出来ると実感する。

テキストの中には、状況、事実を語っているもの、比喩・暗喩的表現で事の成り行きを示唆するもの、立ち入る事の難しいキリスト信仰世界の常識表現等々、通常の文学理解とは程遠い迷路が見え隠れする。それらを少しでも解りやすく解明し、テキスト訳ではなく、テキストが意味する事実と精神内容として把握すること、これが筆者のみならず、〈メサイア〉を愛するわが国の人々に、〈メサイア〉理解の道を開くものと考え。

第1部：預言・降誕

No.	曲種	聖書	テキスト	聖書の内面及びテキストが意味する事実と精神内容
1	序曲			
2	伴奏付 レチ	イザヤ書 40-1	Comfort ye, comfort ye my people, saith your God.	バビロンからの解放の知らせ！ 天の役人が議会に刑罰の期間は終わったと神の命令を伝える。 神の民には慰めがある。
		イザヤ書 40-2	Speak ye comfortably to Jerusalem, and cry unto her, that her warfare is accomplished, that her iniquity is pardoned:	
		イザヤ書 40-3	The voice of him that creith in the wilderness, Prepare ye the way of the Lord, make straight in the desert a highway for our God.	神のために広い道を造れ！ 役人は議会に、水不足と険しい丘陵地帯ゆえの通行不能によってバビロンをパレスチナから隔てていた砂漠を通り抜ける道を造るよう命じる。広い道はバビロンの祝祭での神の勝利の行進の道でもある。
3	アリア	イザヤ書 40-4	Every valley shall be exalted, and every mountain and hill made low the crooked straight, and the rough places pain:	
4	合唱	イザヤ書 40-5	And the glory of the Lord shall be revealed, and all flesh shall see it together: for the mouth of the Lord hath spoken it.	主が救い主メシア降誕を予告。
5	伴奏付 レチ	ハガイ書 2-6	Thus saith the Lord of hosts; Yet once a little while, and I will shake the heavens, and the earth, the sea, and the dry land;	新しい時代の到来。70年前に破壊された神殿の建築に従事する者への激励。第二神殿はかつての神殿の栄光に勝る祝福を与える。
		ハガイ書 2-7	And I will shake all nations, and the desire of all nations shall come:	
		マラキ書 3-1	The Lord, whom ye seek, shall suddenly come to His temple, even the messenger of the Covenant, whom ye delight in: behold, He shall come, saith the Lord of hosts.	メシア来臨の新しい時代の到来を告げる。 マラキとは私の使者を意味し、冒頭イザヤに歌われた神の集会から遣わされた使者であり、主が送った使者（マラキ）が主の通る道を準備する。
6	アリア	マラキ書 3-2	But who may abide the day of His coming? And who shall stand when He appeareth? For He is like a refiner's fire,	清めるために、裁くために主が来られる。 (荒野時代に不信仰な人々が多い中で、神に忠実であったレビ族の子孫)レビの子を、神への捧げ物を正義と共に捧げる者とするために清める。言い換えればそれは民に対して清く、忠誠であれとも暗示している。
7	合唱	マラキ書 3-3	And He shall purify the sons of Levi, ... that they may offer unto the Lord an offering in righteousness.	
8	レチ	イザヤ書 7-14	Behold, a virgin shall conceive, and bear a son, and shall call his name Emmanuel, God-with-us .	テキストの文字通り、乙女が身ごもり男の子を産む。その名はエマヌエル（神は我々と共におられるという意味）と呼ばれるだろう。（処女伝説）
9	アリア・ 合唱	イザヤ書 40-9	O thou that tellest good tidings to Zion, get thee up into the high mountain; O thou that tellest good tidings to Jerusalem, lift up thy voice with strength; lift it up, be not afraid; say unto the cities of Judah, Behold your God!	(ユダヤ教, キリスト教, 回教のいずれにとっても聖なる都)エルサレムに主の到来告知。先ずシオンに伝えられ、シオンは山に登り、町の民に向かって声高らかに叫ぶ「見よ、あなた方の神を！」
		イザヤ書 60-1	Arise, shine; for thy light is come, and the glory of the Lord is risen upon thee.	みすぼらしい状態から立ち上がり、ヤハウエの輝きと共に光を放つようシオンに呼びかける。此れまでの苦しい時代、荒野時代は終わり、光によって象徴される神の存在が民の生活を明るく光り輝くものに変えていくのだ。
10	伴奏付 レチ	イザヤ書 60-2	For behold! darkness shall cover the earth, and gross darkness the people: but the Lord shall arise upon thee, and His glory shall be seen upon thee.	主の栄光が民を照らす。 主の放つ光に向かって従おう！
		イザヤ書 60-3	And the Gentiles shall come to thy light, and kings to the brightness of thy rising.	
11	アリア	イザヤ書 9-2	The people that walked in darkness have seen a great light: and they that dwell in the land of the shadow of death, upon them hath the light shined.	闇の中（荒野）に生きていた苦しい民は偉大な光を見出し、死と化していた荒野（苦しい生活）に光があたり始めた。輝かしい未来の到来。
12	合唱	イザヤ書 9-6	For unto us a Child is born, unto us a Son is given: and the government shall be upon His shoulder: and His Name shall be called Wonderful, Counsellor, The Mighty God, The Everlasting Father, The Prince of Peace.	一人の嬰兒、男の子が民に与えられた。この嬰兒こそメシア的希望の子、素晴らしい指導者、永遠の父なる神、平和の君である。 乙女が身ごもってここに生まれた嬰兒は平和の象徴をあらわす。

13	Pifa			新しい時代を告げる希望に満ちたシンフォニー。羊が放牧された豊かな田園をイメージさせるイタリア・カラブリア地方の羊飼いの旋律リズム(シチリアーノ)
14	レチ	ルカ福音書 2-9	There were shepherds abiding in the field, keeping watch over their flock by night	イエスの誕生と祝福： 住民登録の命を受けて故郷ベツレヘムへ戻ってきたヨセフと許婚マリアはこの地で男の子を出産。馬小屋(羊小屋?)の飼葉桶がベビーベッドとなった。
15	伴奏付 レチ	ルカ福音書 2-9	And lo, the angel of the Lord came upon them, and the glory of the Lord shone round about them, and they were sore afraid.	夜通し羊の群れの番をしていた羊飼達に、主の天使が近づき、主の光が周囲を照らす。羊飼達は驚き恐れる。
16	レチ	ルカ福音書 2-10	And the angel said unto them, Fear not: for, behold, I bring you good tidings of great joy, which shall be to all people.	彼らに向かって天使は言った「恐れることはない、民の者たちに与える大きな喜びを告げる」
		ルカ福音書 2-11	For unto you is born this day in the city of David a Saviour, which Christ the Lord.	今日ダビデの町で、あなた方の救い主がお生まれになった。この方こそ主イエス・キリスト!
17	伴奏付 レチ	ルカ福音書 2-13	And suddenly there was with the angel a multitude of the heavenly host praising God, and saying,	すると、天使の周囲にたちまち多くの天の軍勢が現れて神を賛美して言った。
18	合唱	ルカ福音書 2-14	Glory to God in the highest, and peace on earth, good will towards men.	「いと高き所に栄光が神にあるように。地には平和が御心に適う人にあるように」
19	アリア	ゼカリヤ書 9-9	Rejoice greatly, O daughter of Zion; shout, O daughter of Jerusalem: behold, thy King cometh unto thee; he is the righteous Saviour, and He shall speak peace unto the heathen:	イスラエルの帰還と復興の喜び 驢馬に乗ってエルサレムへ入城したイエスを讃える。首都エルサレムにあなた方の王が来られる、この方は正義のお方で救い主、諸国の民に平和を告げる。
20	レチ	イザヤ書 35-5	Then shall the eyes of the blind be open'd, and the ears of the deaf unstopped:	メシアの〈贖罪〉によって現れた神の栄光 盲人の目が見える様になり、耳の聞こえない人が聞こえる様になり、足の不自由な人が鹿の様に飛び跳ね、口の利けない人が歌った、これ全てイエスの成せる奇跡
		イザヤ書 35-6	Then shall the lame man leap as an hart, and the tongue of the dumb shall sing.	
21	二重唱	イザヤ書 40-11	He shall feed his flock like a shepherd, and He shall gather the lambs with His arm, and carry them in His bosom, and gently lead those that are with young.	征服の中で群れを導く羊飼い(王に対する伝統的敬意の名称)としてエルサレムへ主が到来されたことをユダの町々に告知
		マタイ福音書 11-28	Come unto Him, all ye that labour and are heavy laden, and He will give you rest.	マタイ11-28,29,30はイエスの民への呼びかけ「わたしの」ところへ来なさい、イエスを受け入れたのは一般民衆だった。重荷を負って疲れきった者たちにイエスは安らぎを与え、イエスに従った人は冷酷な主人でないことを知った。〈メサイア〉テキストでは3人称であるが、元の聖書は1人称。私のところへ来なさい、私のくびきは負いやすく、私の荷は軽い。
		マタイ福音書 11-29	Take His yoke upon you, and learn of Him, for He is meek and lowly of heart: and ye shall find rest unto your souls.	
22	合唱	マタイ福音書 11-30	His yoke is easy, and His burthen is light.	

第2部：受難・再臨

23	合唱	ヨハネ福音書 1-29	Behold the Lamb of God, that taketh away the sin of the world.	イエスは人々の罪の故に、子羊のように犠牲となり、ご自分の命を全ての人のために捧げられる。
24	アリア	イザヤ書 53-3	He was despised and rejected of men; a man of sorrows, and acquainted with grief:	民のために苦しまれる神の下僕イエスは民の痛み、過ち、咎の全てを負われた。罪を負うことは罪の結果を負うこと、即ち捕囚の民は彼らの捕囚前の先祖達の罪をも負わなければならなかった。神はそれら全てをイエスに負わせられ、それによって民は癒され救われる。
		イザヤ書 50-6	He gave His back to the smiters, and His cheeks to them that plucked off the hair: He hid not His face from shame and spitting.	
25	合唱	イザヤ書 53-4	Surely He hath borne our griefs, and carried our sorrows!	
		イザヤ書 53-5	He was wounded for our transgressions, He was bruised for our iniquities: the chastisement of our peace was upon Him; And with His stripes we are healed.	

26	合唱	イザヤ書 53-6	All we like sheep have gone astray; we have turned every one to his own way; and the Lord hath laid on Him the iniquity of us all.	
27	伴奏付 レチ	詩篇 22-7	All they that see Him laugh Him to scorn: they shoot out their lips, and shake their heads, saying,	詩篇22編は苦しみと救いが交互にあらわれる。イエス自身の苦しみの状態を謳っている。彼(イエス)を見る人皆が嘲けり笑い、頭を振りながら言う。
28	合唱	詩篇 22-8	He trusted in God that He would deliver Him: let Him deliver Him, if He delight in Him.	神が救ってくれるだろう、神が彼に心をかけているなら、救ってくれる筈だろう!
29	伴奏付 レチ	詩篇 69-21	Thy rubuke hath broken His heart; He is full of heaviness: He looked for some to have pity on Him, but there was no man; neither found He any to comfort Him.	人々の嘲りに心打ち砕かれ、いたわり慰めてくれる人もいないことを嘆き悲しむイエス。彼は苦しみの中に、失意の者とその屈辱を知る。彼を悩ます者の咎は明白である。(その背後には詩篇69編後半へ続く祈りがある)
30	アリア ゾ	哀歌 1-12	Behold, and see if there be any sorrow like unto his sorrow.	主イエスの痛み苦しみを嘆く詩。これほどの苦しみがあるだろうか。
31	伴奏付 レチ	イザヤ書 53-8	He was cut off out of the land of the living: for the transgression of Thy people was He stricken.	民の背きゆえに不名誉な死に終わった不正な裁きについて語っている。
32	アリア	詩篇 16-11	But Thou didst not leave His soul in hell; nor didst Thou suffer Thy Holy One to see corruption.	信仰の道、命を神に委ねる人は前途に何が横たわっていても惑わされることはない。報いの言葉。
33	合唱	詩篇 24-7	Lift up your heads, O ye gates; and be ye lift up, ye everlasting doors; and the King of Glory shall come in.	もともとこの詩篇24編は行列の際に歌われる賛美歌。神の御箱がエルサレムに運び込まれた時の状況を歌ったものであり、神の御箱は町の門の前にある。 栄光に輝く、雄々しき主が入城される門を開けよ!
		詩篇 24-8	Who is this King of Glory? The Lord strong and mighty, the Lord mighty in battle.	
		詩篇 24-9	Lift up your heads, O ye gates; and be ye lift up, ye everlasting doors; and the King of Glory shall come in.	
		詩篇 24-10	Who is this King of Glory? The Lord of Hosts, He is the King of Glory.	
34	レチ	ヘブル人 への手紙 1-5	Unto which of the angels said He at any time, Thou art my Son, this day have I begotten thee? ...	神の御子イエス・キリスト、キリストの神性について語られている。そして神の御使い(天使たちは皆、彼(イエス)を崇め礼拝した。御子としての地位ゆえにキリストは天使たちに優っている。
35	合唱	ヘブル人 への手紙 1-6	Let all the angels of God worship Him.	
36	アリア	詩篇 68-18	Thou art gone up on high, Thou hast led captivity captive: and received gifts for men; yea, even for Thine enemies, that the Lord God might dwell among them.	キリスト昇天と精霊降臨。神はエルサレムのシオンの山を住まいとして選ばれた。エルサレムが首都となり、神殿が建設される。
37	合唱	詩篇 68-11	The Lord gave the word: great was the company of the preachers.	地上におけるメシアの救いの技が終わり、新しい時代(福音)が始まる。
38	アリア・ 合唱	ローマ人 への手紙 10-15	How beautiful are the feet of them that preach the gospel of peace and bring glad tidings of good things!	よい知らせを伝える者の足は、何と美しいことか、その声は全地に響き渡り、その言葉は世界の果てまで及ぶ、即ち使徒達による福音が素晴らしい速さで正しく全世界に及ぶということを意味している。
		ローマ人 への手紙 10-18	Their sound is gone out into all lands, and their words unto the ends of the world.	
39	アリア	詩篇 2-1	Why do the nations so furiously rage together, why do the people imagine a vain thing?	〈王の詩篇〉と呼ばれるこの詩篇第2編は、反キリスト者達の出現、神に対する諸国民の反逆、キリスト再臨による悪罪の粉碎、王(メシア)の勝利と支配を表している。この詩に謳われている内部の激しい響きと、王への集中的関心にも拘わらず、主を避けようとする人々への静かな擁護へと移行し、次の〈ハレルヤ〉に繋がる。
		詩篇 2-2	The kings of the earth rise up, and the rulers take counsel together, against the Lord, and against His Anointed.	
40	合唱	詩篇 2-3	Let us break their bonds asunder: and cast away their yokes from us.	

41	レチ	詩篇 2-4	He that dwelleth in heaven, shall laugh them to scorn: the Lord shall have them in derision.	
42	アリア	詩篇 2-9	Thou shalt break them with a rod of iron; thou shalt dash them in pieces like a potter's vessel.	
43	合唱	ヨハネ黙 示録 19-6	Hallelujah: for the Lord God omnipotent reigneth.	勝利のキリスト、ハレルヤ！万物の支配者である 我らの神である主は王になられた。第7の御使 いがラッパを吹き鳴らし、この世の国は我らの 主、メシア（キリスト）のものとなり、王は世々 限りなく統治される、ハレルヤ！イエスは支配 者となり、世界はイエスの御国となった、神を 賛美しよう！
		ヨハネ黙 示録 11-15	The kingdom of this world is become the kingdom of our Lord, and of His Christ; and He shall reign for ever and ever.	
		ヨハネ黙 示録 19-16	King of Kings, and Lord of Lords.	

第3部：復活・永久の生命

44	アリア	ヨブ記 19-25	I know that my Redeemer liveth, and that He shall stand at the latter day upon the earth:	キリストの贖罪と死からの復活、そしてキリスト を信ずる者の復活でもある。暗黒の時でさえ信仰 と希望はキリストの内にあった。パウロはキリス トの復活は最も大切なことの一つであると主張し ている。キリストの復活はキリスト者の復活を意 味し、復活の体は埋葬された体よりも勝っている。 キリストの新しい体は霊の体である。 キリストは死者の中から復活され、眠りについて いる人達の初穂となられた。死者が一人の人によ って来たのだから復活も一人の人によって来るのだ。 アダムによって全ての人が死ぬことになったよう にキリストによって全ての人が生かされるのであ る。
		ヨブ記 19-26	And though ... worms destroy this body, yet in my flesh shall I see God.	
		コリント人 への手紙I 15-20	For now is Christ risen from the dead, the first fruits of them that sleep.	
45	合唱	コリント人 への手紙I 15-21	Since by man came death, by man came also the resurrection of the dead.	
		コリント人 への手紙I 15-22	For as in Adam all die, even so in Christ shall all be made alive.	
46	伴奏付 レチ	コリント人 への手紙I 15-51	Behold, I tell you a mystery; We shall not all sleep, but we shall all be changed,	No.46から50曲はコリント人への手紙、15章51～ 57節まで連続使用されているため、テキスト通 りに読み進むことで非常に理解し易い。世の終 わりにおける復活の神秘、復活の体を考えさせ る呼びかけ、ラッパが鳴ると死者は復活し、我々 の現実の体とは異なる体へ、即ち肉の体から霊 の体に変化する。復活によって霊なる体は死の 力に支配されることはない。その体は不滅であ り、不朽の体への復活なのである。新しい生命 を与えられたのである。キリスト信仰者は罪と 律法の力から解放されているが、主の来臨のそ の時に死の力から解放されるのです。No.50の合 唱曲 But thanks be to God でイエス・キリストを 通して死を超えた究極の勝利を賜う神に率直な 感謝を表す。この書の著者パウロは章の最後で コリントのキリスト者達に自分達の働きが決し て無駄ではないこと認識し、キリストの業を担 いつつしっかり福音に務める様勧めしている。
		コリント人 への手紙I 15-52	In a moment, in the twinkling of an eye at the last trumpet:	
47	アリア	コリント人 への手紙I 15-52	The trumpet shall sound, and the dead shall be raised incorruptible, and we shall be changed.	
		コリント人 への手紙I 15-53	For this corruptible must put on incorruption, and this mortal must put on immortality.	
48	レチ	コリント人 への手紙I 15-54	Then shall be brought to pass the saying that is writ- ten, Death is swallowed up in victory.	
49	二重唱	コリント人 への手紙I 15-55	O death, where is thy sting? O grave, where is thy victory?	
		コリント人 への手紙I 15-56	The sting of death is sin; and the strength of sin is the law.	
50	合唱	コリント人 への手紙I 15-57	But thanks be to God, who giveth us the victory through our Lord Jesus Christ.	

51	アリア	ローマ人への手紙 8-31	If God be for us, who can be against us?	〈救い〉の完成、永遠の生命に対する感謝と賛美。神が私達の見方であるなら、誰が私達に敵対できるでしょうか、誰も出来ません。死んで下さった方、否復活されたイエス・キリストが神の右の座に座られて、私達をとりなして下さるのです。
		ローマ人への手紙 8-33	Who shall lay any thing to the charge of God's elect? It is God that justifieth.	
		ローマ人への手紙 8-34	Who is he that condemneth? It is Christ that died, yea rather, that is risen again, who is ... at the right hand of God, who ... makes intercession for us.	
52	合唱	ヨハネ黙示録 5-12	Worthy is the Lamb that was slain and hath redeemed us to God by His blood to receive power, and riches, and wisdom, and strength, and honour, and glory, and blessing.	王座に座られた神と小羊への限りなき感謝と賛美。屠られた小羊とは唯一の資格を与えられた神の使者を意味する。
		ヨハネ黙示録 5-13	Blessing, and honour, glory, and power, be unto Him that sitteth upon the throne, and unto the Lamb for ever and ever.	
			AMEN.	アーメン

§. 結び

以上単にテキスト訳ではなく、聖書の内面、テキストの意味する精神内容を考察することによって、〈メサイア〉の新たな側面が見出せたのではないだろうか。〈メサイア〉はキリスト信仰を謳いあげた象徴的作品である。

〈メサイア〉の各楽曲は序曲、レチタティーヴォ、伴奏つきレチタティーヴォ、アリア、重唱、合唱と各々独立した1曲として52曲の演奏 No.がつけられ、それらが第1部、第2部、第3部と大きく分類されている。しかし各部の中を幾つかのグループに括り、演奏効果を考えていくのが最良であると考え。グループ分けの根拠になるのは紛れもなくテキストとその内容である。無論音楽的側面と一致させながら考えていかねばならないが、聖書の出典を意識することにより、グループ分けの大きな示唆が得られたと確信する。今後テキストと音楽をより緊密に結び考察していきたい。

参考文献

- 聖書：日本聖書刊行会（1970）
 聖書 新共同訳：日本聖書協会（1987）
 The New English Bible：Oxford & Cambridge university Press（1970）
 ハーパー聖書注解：J.L.メイズ編 聖書文学学会 教文館（1996）
 カラー聖書ガイドブック：いのちのことば社（1978）
 前田護郎：ことばと聖書 岩波書店（1969）
 Deutsch, Otto Erich：Handel A Documentary Biography（1955）
 Hogwood, Christopher：Handel（1984）
 Lang, Paul Henry：Gerge Frideric Handel（1972）
 Larsen, Jens Pete：Handel's MESSIA（1972）
 Sadie, Stanley：Handel（1968）邦訳：ヘンデル（村原京子訳）（1975 全音楽譜出版社）
 Shaw, Watkins：The Story of HANDEL's MESSIA（1963）
 Smith, Ruth：Handels Oratorios and Eighteenth-century Thought（1995）

楽譜

Shaw, Watkins : Handel's Conducting Score of Messiah

Randall & Abell : MESSIAH An Oratorio in Score

Neue Handel Ausgabe Georg-Friedrich-Handel-Gesellschaft (1995)

Chrysander Friedrich : Handel's Messiah

事典

The New Grove Dictionary of Music and Musicians (1980) (2001)

キリスト教大事典 (改定新版) 教文館